



¡Hola! desde Nicaragua

☆青年海外協力隊 ニカラグア通信 No39☆ 2012年9月28日 発行者 夏目佳代子

iHola! 日本は少しずつ秋らしくなって来た頃でしょうか。季節の移り変わりを五感で感じられるのは、日本がもつすばらしさの1つだと思います。ヌエバギニアは相変わらず雨がよく降ります。(毎回言ってますね・・・) ざあーっと風とともに降り込んでくる雨を見て、「あーまた降って来た。」と私。「こんな雨のときに寝るのは気持ちいいよ。」とスタッフのマルロン。年中蒸し暑いので、雨が降った方が涼しくて気持ちいいと感じる人が多いようです。洗濯物が雨にぬれても、結構そのままだったりもします。



☆雨ザアザア降って来て・・・

☆アートマイル壁画プロジェクト始動!! できるかな・・・

青少年の家では、ジャパンアートマイルが行っている国際交流壁画共同制作プロジェクトに参加申し込みをし、9月下旬から取り組み始めました。これは、インターネットで海外の学校と交流し、共通のテーマで学習した後に、半分ずつ絵を描いて1枚の壁画を完成させるというプロジェクトです。

(参照 <http://www.artmile.jp/>) 岐阜県の小学校と交流できる機会に恵まれたのですが、なかなか前途多難です。(取り組みを始めるに至るまでにもいろいろあったのですが・・・)

プロジェクトを始めるにあたり、カウンターパートのアウラと話し合い、参加申し込みをした子どもたちとその保護者に説明会を開くことにしました。当日、開始時間が近づいて来た時、アウラが「市役所で会議が入ったからちょっと行ってくるわ。戻って来るからだいたい集まったら電話してくれる？」と。30分くらいたっただいぶ集まってきたところで電話してみると・・・出ない・・・時間をおいて3回かけても出ず、ようやく出たと思ったら「誕生日のサプライズでケーキ買って来てたの。(その数日前が彼女の誕生日だったのです。) 今行くわ。」と・・・なんだなんだ、会議じゃなかったのか。でも、誕生日のイベントもみんなにとって大切だからしょうがない、もう少し待つか・・・と待っても来ない!・・・ので再度電話してみたら「今行くわ!」あ、まだ市役所にいるのね・・・こんなこともよく起こるし、いつもだったらこんなにせかさないけれど、今日の説明会はプロジェクトの開始の初日、数ヶ月に渡って行う活動の内容を子どもたちや保護者にちゃんと理解してもらいたいし、私1人でやっても意味がないし・・・とやきもきしていたら、別のスタッフが「今アウラから電話があって、来ないって。だからもう始めよう。」と・・・だったら何で直接言ってくれないんだ・・・プロジェクトを第一優先にするって、一緒にやるってあれほど言っていたのに、と怒れるやら悲しくなるやら。でも、それ以上待たせることもできないので、スタッフと一緒に説明会をしました。子どもたちも保護者も、プロジェクトのねらいや内容をよく理解してくれたことが救いでした。

次の日、アウラに思っていることを伝えました。「申し込みをする時から一緒に進めて行くって言っていたし、昨日も戻って来るってその言葉を信じていたし、だから来なかったことにも怒れたけど、それ以上に直接連絡してくれなかったことが悲しかったし裏切られたような気分だった。」と。彼女は、「誕生日パーティーの後戻ろうとしたら、別の会議があると呼び止められて、それはどうしても出ないといけない重要な会議だったから戻れなかったの。会議中もずっと考えていたし、ずっといやな気分だった。プロジェクトを一緒に進めて行くということは約束したし、それはちゃんと果たすわ。でも何も連絡がなかったら、何か重大なことが起こったということを知ってほしい。」「でもそれが分かった時点で言ってくれなかったら、いつまでもどうしたのかって心配し続けるよ。」と・・・全ては書ききれませんが、お互い思っていることを話しました。彼女自身もいろいろ抱えていて悩んでいることを話してくれました。その状況をスタッフや私に話してくれれば、青少年の家の状況を共通理解することができるし、何か解決策が出てくるかもしれないよと伝えました。文化や価値観の違いがある中で、分かり合うというのは本当に難しいです。私が怒れたり、悲しくなったりする状況も、現地の人にとってはそう感じないこともたくさんあります。「なんで?」と思うこともたくさんあるけれど、相手にとっても同じことが起こっているのだと思います。最初の頃はなかなか思っていることも言え

ず、今でもいつ言うかどう言うかはあれやこれやと考えますが、こんな考え方もあるということ、こんな風を感じる人もいるということを知ってもらえればいいなと自分の考えをできるだけ伝えようとしています。このような状況のとき、いつも思い出すのが訓練の時に聞いた「お互い許すことで人間関係が築ける。」そして、「ボランティアとは“変わること”」という言葉です。「変わるとは、自分を捨てるということではなく、相手を受け入れて自分を伝えるということ、変わるためには、相手を知ること以上に“自分”を知らなくてははいけない。」という話が心に残っています。こんなことが起こる度に、自分のことを見つめ、もっと器の大きな人になりたいなと思うのです。

そして、肝心のアートマイルの方は・活動を始める日の前日になって、「カヨコ、また問題発生だわ・隣の広場で、市長選の選挙運動開始の集会をするって。歓声や音楽ですごい騒ぎだから集まっても何もできないわ。」と・・・ “スタート！”がなかなかきれいな状態ですが、自分だけではどうすることもできないことは多々あります。今後もいろいろ起こる可能性はありますが、子どもたちが楽しんで取り組める環境を作れるように、最大限できることをしていこうと思います。

☆ヌエバギネアの子どもたち ～学校編～

ニカラグアでは、小学校が6年間、中等学校が5年間です。その後、大学と続きます。学校は2部制で、朝7時から12時までの午前の部、12時から5時までの午後の部に別れています。午前午後とも小学校というところもあれば、午前は小学校で午後は中学校（その逆も）、というところもあります。また、夜の部、週末だけの部がある中等学校もあります。中等学校までは無償ですが、義務教育ではないそうです。制服は小学校から中等学校までどの学校もみんな同じ、白いシャツに紺色のズボン／スカート、白か紺の靴下に黒の靴です。オリジナルの体操服がある学校もあります。かばんは自由ですが、子どもたちの大多数はバックパックを背負っています。校舎は1階建てで、いくつかの建物に別れています。公立の学校の壁の色は青と白。何の色でしょうか？――国旗の色です。↓このようなブロック塀の校舎が多いですが、すべての学校、学年がそのような校舎ではありません。



☆校門前 下校する中高生



☆4～6年生の校舎。一番右が6年生の教室↑

☆こちらの学校は、5,6年生が木とトタン屋根の教室↑



☆壁はトタン、床は土の教室。

扇風機もなく、生徒でいっぱい教室はサウナ状態です。明かりも十分とはいえず、薄暗く感じます。←子どもたちが使う机です。ノートを1冊置いたらそれでいっぱいの机。かばんはイスにかけます。スペイン語は横書きなのに、ノートの罫線が自分に対して垂直になるように置いて、下から上に向かうように書く人をよく見かけるのですが、これはこの小さな机でノートに書いているからなのだと思います。

教育の役割は大きいということはいままでずっと考えてきたことですが、ニカラグアに来る前は、建物や物などのハード面より、指導方法や教材などのソフト面が大切ではないかと考えていました。しかし、ヌエバギネアの子どもたちが学ぶ環境を見ると、ハード面の必要性も感じます。例えば日本の教室環境を考えてみると、一人一人に机とイス、ロッカーがあり、身長に合わせて机の高さを変えたり、イスの脚がぐらぐらしたら直したり、さらには教室の電気の明るさや二酸化炭素の濃度を計ったりもします。扇風機やストーブもあります。また、教科によって理科室や音楽室、体育館もある。日本では当たり前のものが、世界全体という視点で見ると特別だと思えることがたくさんあります。子どもたちの学校生活や日常生活の様子、またお伝えします。 それではまた！ ¡Adios!